

第 82 回技術倫理協議会 議事録

1. 日 時：2019年7月9日（火） 15:00～16:10
2. 場 所：乃木坂ビル A会議室
3. 出欠予定（役職順、敬称略）（出席 12 名／欠席：20 名（未回答含む））

《役職順／所属順：順不同》

No.	役職	氏名	所属	出欠
1	議長	桑江 良明	日本技術士会	出
2	副議長	札野 順	日本工学教育協会	出
3	副議長	松久 寛	日本機械学会	出
4	幹事	吉沢 清晴	(日本技術士会)	欠
5		本間 弘一	日本工学教育協会	欠
6		田中 克	日本機械学会	出
7	委員	掛谷 英紀	公正研究推進協会	出
8		八坂 保弘	電気学会	欠
9		石橋 邦夫	電気学会	出
10		三木 哲也	電子情報通信学会	欠
11		吉開 範章	電子情報通信学会	出
12		皆川 勝	土木学会	(欠)
13		丸山 信	土木学会	(欠)
14		檜山 爲次郎	日本化学会	(欠)
15		後藤 達乎	日本化学会	(欠)
16		櫻井 克信	日本技術士会	出
17		大場 恭子	日本原子力学会	欠
18		中野 智仁	日本原子力学会	出
19		石川 孝重	日本建築学会	欠
20		鎌田 潤一	日本建築学会	出
21		大西 俊彦	日本非破壊検査協会	(欠)
22	岡田 博	日本マシニングエンジニアリング学会	(欠)	
23	学識委員	仙田 満	日本工学会	(欠)
24	財務担当理事	土井 美和子	日本工学会	出
25	アドバイザー	長島 昭	元議長	欠
26	アドバイザー	池田 駿介	元議長	欠
27	アドバイザー	大輪 武司	元議長	(欠)
—	アドバイザー	(三木 哲也)	元議長	委員兼
28	アドバイザー	日高 邦彦	元議長	欠
—	アドバイザー	(石川 孝重)	前議長	委員兼
29	オブザーバー	川上 理英	日本工学教育協会	出
30	オブザーバー	鶴原 稔也	電子情報通信学会	欠
31	事務局	木暮 賢司	日本工学会 事務局	欠

4. 議題

- ①前回議事録(案)について (審議)
- ②2019年度日本工学会技術倫理協議会構成 (平成31年度体制) (報告)
- ③第15回公開シンポジウムについて (審議)
- ④会員活動報告について (報告)
- ⑤技術倫理協議会規程の改正について (懇談)
- ⑥協議会会員の増強について (懇談)
- ⑦次回第82回以降協議会日程について (審議)
- ⑧その他

5. 議事

- ①前回議事録(案)について、議事内容の確認、審議を行い、原案は承認された。
- ②2019年度日本工学会技術倫理協議会委員構成の変更について、報告があった。
- ③第15回公開シンポジウムについて講師依頼状況など (審議) (技倫資料82-5)
 - ・テーマは、「これからの技術倫理～責任ある技術の実践と研究開発～」と決定した。
 - ・4名の講師すべての了承が得られた。
- ④定例の各学協会の活動概要が、各学協会委員から報告された。
 - 次回第83回以降協議会日程について、以下を決定した。
 - ・次回、第83回協議会 2019年9月19日 (木) 10:00～12:00 乃木坂ビル A会議室
 - ・齋藤講師については、交通費 (日帰り) の支給が必要であること、川延氏の謝金は1万円です承いただいているとの報告があった。
 - ・依頼状発信者は、4名とも協議会議長名とすることが確認された。
 - ・シンポジウム企画書は、札幌副議長作成の案に基づきメール等により内容確認等を行いながら作成を進め、次回協議会で確認し、その後直ちに依頼状の発送、シンポジウムの周知に入ることとした。
 - ・シンポジウムの事前周知は、企画書なしでも始められるので、他の学協会等への周知も含め、事務局 (小暮様) と相談し進めることとした。
 - ・講師依頼にあたっては、プレゼン資料等を提出いただく時期等を明示してお願いするべきであるとの指摘があった。

第82回技術倫理協議会 (2019年7月9日) 会員学協会活動報告

	学協会名	報告概要
1	公正研究推進協会	7月1日 新単元「技術と社会」査読 7月12日 理工学系分科会 (予定) 7月26日 新単元「事例集」WG (予定) 11月 技術倫理セミナー (予定) 年度内に既存単元の英文和訳部をオリジナルコンテンツに差し替えることを目指す。
2	電気学会	(1) 6月24日 第49回倫理委員会開催 ・令和元年度 新委員の選任、活動計画の確認等

		<ul style="list-style-type: none"> ・電気学会HPのリニューアルに関する意見確認 ・9月20日予定の第12回倫理委員会研修会の承認 テーマ：「地球環境の科学と資源問題」 ～地球環境の問題を理解して環境倫理を考える～ 講師1：国立環境研究所 江守 正多 氏 講師2：地球環境産業技術研究機構 山地 憲治 氏 ・令和2年3月の全国大会での倫理委員会主催のシンポジウムに関し、 テーマ等の議論。 ・定例講演会； 「化学物質の生態影響を最小化するために」 講師：国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター 副センター長 山本 裕史 氏
3	電子情報通信学会	<p>(1)技術と社会・倫理(SITE)研究会が、電子化知的財産・社会基盤(IPSJ-EIP)研究会と合同で、6月3・4日に、関東学院大学・関内メディアセンターにて、「情報セキュリティ・知的財産」をテーマに開催され、1件の招待講演(芳賀(滋賀聖徳学園大)：教育と著作権あれこれ)を含む23件の発表があった。</p> <p>(2)電子情報通信学会倫理綱領に関する情報として、倫理事例集(β版)のWeb一般公開を準備中。意見集約中。</p>
4	土木学会	
5	日本化学会	
6	日本機械学会	<p>6月24日技術倫理委員会開催</p> <p>1)今期運営方針の確認、2)日本機械学会年次大会(9月、秋田大学)の特別企画の報告、3)WEB発信記事の進捗報告、4)倫理貢献賞の検討等を行った。</p>
7	日本技術士会	<p>1. 2019年5月22日(水)に、第11回シンポジウム「企業活動と倫理」(講演内容：技術者倫理の実践、倫理関係の事例、SDGs)を開催した。約130名の参加があり、聴講者の反応(アンケート結果)も好評だった。</p> <p>2. 2019年6月5日(水)に現体制最後の倫理委員会を開催した。</p> <p>【綱領小委員会】</p> <p>①技術者倫理自主教材(創作事例)について、技術士会HPに掲示することとなった。また、今後はベストプラクティス型の事例の提示も検討予定。</p> <p>②次期委員会編成後、綱領検証WG(仮称)を速やかに立ち上げるために準備中。</p> <p>【啓発小委員会】(上記シンポジウム報告)</p> <p>【情報小委員会】</p> <p>今年11月の全国大会(徳島)での倫理行事の準備・調整状況報告。</p> <p>【倫理教育検討WG】</p> <p>これまでの活動報告があった。また、技術士会HPに「講義構成例」</p>

		を掲載し情報共有の場とすること、その運営・管理のための後継WGを設置することが提案され、次期委員会で審議することとなった。
8	日本原子力学会	<p>6/17に委員会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年春の年会の企画セッションで議論した最近の品質不正問題の深堀として研究会を開催することを計画している。講演内容の倫理規程改訂にあたっての取り組みとして、紹介されたプリンシプル・ベース・アプローチ（実効的な原則主義的なアプローチ）とリスクベースアプローチにより取り組みを検討する計画である。 ・2019年秋の大会の企画セッションのテーマとして「技術の現場と倫理の相互作用：新規技術の研究開発に着目して」と題して、今後の原子力の研究・開発のあり方について議論することを計画している。（富山大学9/11-13） ・研究者と技術者では原子力安全文化に対する認識に少なからず温度差があると考えられている。研究者（研究機関）の原子力安全文化に対する認識と技術者（電気事業者、メーカーなど）の原子力安全文化に対する認識の相違を議論している。倫理委員会内の議論では堂々巡りの様相を呈し始めたので、最大の研究機関である日本原子力研究開発機構内で聞き取り調査（アンケート）を行い、現状認識を実施したうえで、その相違の原因は何か、相違を埋める必要があるかなど、原子力業界として、原子力安全文化に対してどのような考えを持つ必要があるかを再度検討する。
9	日本建築学会	<ul style="list-style-type: none"> ・5月15日に倫理実践検討小委員会が開催され、①本会 倫理綱領・行動規範についての検討、②集団倫理におけるディベートの意義について検討を行った。 ・7月1日に倫理委員会が開催され、①倫理委員会2019の方針について、②倫理実践検討小委員会報告、③建築倫理教材開発WG報告、④SDGsアンケートについて検討を行った。 ・7月1日に建築倫理教材開発WGが開催され、倫理教材（動画版）作成の検討を行った。
10	日本工学教育協会	<ul style="list-style-type: none"> ・第67回年次大会にてオーガナイズドセッション「幸せをつくる技術者教育ーポジティブ・エデュケーション」実施予定。講演者：札野，永岑（東工大），小林（熊本高専）。 ・11/29（金）30（土）第20回ワークショップ「技術者倫理」開催予定 @東工大大岡山（研究倫理を統合）。 ・倫理綱領改訂に合わせて教育（者）倫理について検討。
11	日本非破壊検査協会	
12	日本マリンエンジニアリング学会	

(以上)